

いきいき!

きほく人

Vol. 2

鬼北牛鬼クラブ

まつうらようき
松浦要喜さん(71歳)



である。
自宅の作業所で頭づくりに励んでいる松浦さんに作業工程を伺った。

「まず、糸のこで耳、牙などの部位を型に沿って切り、機械のやすりで大まかに形を整えます。その後は数種類のペーパーやすりで表面が滑らかになるまで幾度も作業を続けます。次に、表面に木工ボンドを薄く塗り、和紙、木工ボンドの順で重ねていきます。その上に赤や緑、黒などのエナメルを使ってムラのないように丁寧に彩色します。最後に、馬の毛を使った髪、ガラス玉を使った目など出上がった部品を土台に組み合わせて完成となります。」

このような細かく、根気のいる作業を農業などの合間に行い、2週間から3週間で作品を完成させる。こうして出来上がったものが魔除けとして玄関などへ飾られるわけだが、飾った牛鬼を見て譲って欲しいと頼まれることも多いという。迫力ある牛鬼の表情と細部まで手の込んだ熟練の技を見れば、魅了されるのもうなずける。

これまでに松浦さんは20点以上の頭を製作しているが、それでも、「思い描いたものが作れていない」と頭づくりの難しさを語る。作業

所に所せましと並ぶ様々な材料や道具を見れば、これまで試行錯誤を重ねながら頭づくりに取り組んでこられた姿が容易に想像できる。今回見せていただいた牛鬼の一つでおがくずを使って、牛鬼の肌の質感を表現したオリジナル作品はその結果だと言える。

今秋には、鬼北牛鬼クラブによる展示会を計画しており、約50点が出品される。松浦さんもそれまでに3点ほど製作されるという。どんな表情の牛鬼に仕上がるか、今から楽しみだ。



宇和島市を中心に南予地域に古くから伝わる牛鬼。鬼北町でも、秋祭りになると各地域で威勢のいい担ぎ手が牛鬼で練り歩く姿を目にすることが出来る。今回紹介する奈良地区在住の松浦さんは「牛鬼の頭」づくりをされている。松浦さんが牛鬼の頭づくりを始めたのが約10年前。町が主催する講習会の案内を見て申し込みし、それから牛鬼づくりの魅力に引き込まれた。3年前からは、それまで宇和島市から招いていた講師を引き継ぐ形で、近永公民館で毎年講習会を行っている。ここではダンボールを使って比較的簡単にできる頭づくりを指導しており、参加者にも好評